

◆東京藝術大学特別講座（DOOR） 第2回目

演題	多様な性のあり方
講師	<p><b>松岡 宗嗣（まつおか そうし）氏</b>          一般社団法人 fair 代表理事 愛知県名古屋市生まれ。明治大学政治経済学部卒。政策や法制度を中心とした性的マイノリティに関する情報を発信する一般社団法人 fair 代表理事。          ゲイであることをオープンにしながら、Yahoo!ニュースや現代ビジネス、HuffPost、GQ 等で多様なジェンダー・セクシュアリティに関する記事を執筆。          教育機関や企業、自治体等での研修・講演実績多数。          著書に『あいつゲイだって - アウティングはなぜ問題なのか?』（柏書房）、共著『LGBT とハラスメント』（集英社新書）、『子どもを育てられるなんて思わなかった-LGBTQ と「伝統的な家族」のこれから』（山川出版社）など。          NHK「あさいち」、TBS「news23」、日本テレビ「news zero」、TBS ラジオ「荻上チキ・Session」、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞などメディア出演多数。</p>
参考資料	<p>「LGBT とハラスメント」神谷 悠一・松岡 宗嗣（集英社新書）          「あいつゲイだって - アウティングはなぜ問題なのか?」松岡 宗嗣（柏書房）</p>

◆◆受講後の学生の感想◆◆

1年 ①

これまでの人生で、性的マイノリティの人に出会った事はとても少ない。講義の中で実際は人口の約3～8%（AB型の人口、左利きの人口などと同程度）存在すると聞き驚いた。驚いたということ自体が、自分が周囲に存在しないと思い込んでいた（見えていなかった・見ようとしていなかった）ことの証明であり、視野の狭さを恥ずかしく思った。

これから医療職者として、LGBTQの方のケアを担当することも数多くあると思われる。その時、相手に安心を与え、信頼してもらうためには、ALLYとして経験・知識を持っていることが重要だと考える。仕事の上だけでなく、普段の生活から先入観を捨ててコミュニケーションをとること、自分の特権性で目がくもっていないか常に考えることに気を付けていきたい。相手に関心を持って、あらゆることを自分ごと化して考える癖を身に付けたい。

1年 ②

今回の講義を通して、改めて性の多様な在り方について考えることができました。LGBTQについては、中・高で習う機会があり、どんなことかは理解できていると思っていましたが、性には様々な在り方があって、人それぞれで異なり、カミングアウトをした時の周り

の反応や、性的マイノリティをオープンにする人、隠している人がいるなども違ったため LGBTQ について簡単に理解することは難しいと感じました。LGBTQ についてもっと色々な情報や知識を増やし、自分の身近にも当事者がいるかもしれないという事を常に頭に置き、自分の言動を見直し、差別をせず、周りにも情報を共有していくことが性について悩んでいる人たちを救うために今自分ができることだと思います。

今後、人々が生きやすい時代になるためには、法整備が整えられ、LGBTQ に関する教育を増やすなど皆で協力していくことが大切で、周りに LGBTQ がいないと思込まず、見えていないだけかもしれないということを皆が理解し、皆が一緒の考えを持っていると思わず人それぞれ違うんだと常に頭に入れておくことが重要なのではないかなと思いました。今回、性の在り方について学ぶことができてよかったです。

## 2年 ①

最近のニュースでも「同性婚ができないのは違憲である」という裁判判決が出たりするなど、LGBTQ という言葉は以前より知っている人が増えつつあると思う。

個人的な意見としては松岡さんと同じような性的マイノリティの人たちも性的マジョリティの人たちと変わらず普通に誰かを好きでいられるような差別や偏見のない世の中になってほしいと、関連するニュースがテレビで流れるたびに思っていた。

たまたま人数の多い異性愛者に生まれただけ、たまたま人数の少ない同性愛者などに生まれただけなのでそこに差を作り出してはいけないはずだ。その人がその人らしく生きていけるようにするべきだと思う。

「アライシップ」という言葉は初めて聞いた言葉だが、とても良いものだと感じた。私も、よりよい世の中にしていくために、アライの一員になりたいと思う。

今でも見えていなかっただけで私の出会ってきた人たちの中でも LGBTQ の人たちがいたのかもしれない。知らないうちに心無い言葉をかけられたり、怯えながら過ごしていたのかもしれない。そう思うと心が痛くなる。そんな人たちの味方になりたいと今回の講義を通して考えさせられた。

そして、早い将来 LGBTQ という言葉が当たり前になり、誰が誰を好きでも、それでいいんだと思えるようになってほしいと心から願った。

## 2年 ②

今回の講義を受けて、LGBTQ の考え方が広まり、受け入れられているような社会に見えていたが、本来は日本の制度がまだまだ整備されていなかったり、身近にはいないという思い込みが強かったり、その方たちを受け入れる社会には完全にはなっていないことが分かった。

天草内でも、制服が嫌で不登校になってしまう事例をよく耳にする。特定の異性のみを好きになるのが当たり前であり、カミングアウトした人がなぜ辛い思いをしないといけないのか疑問に思った。人を愛することは、皆が自然な感情であり、性別だけを見るものではないと考えた。

アライの考え方を知ることができたので、自分がどのように考動していけばいいのか、今回の講義を受けてとても興味を持った。